

# 第 3 回 美山川やすらぎの川づくり検討委員会

## 説明資料

平成 21 年 3 月 16 日

京都府 南丹土木事務所

## 1. 第2回美山川・やすらぎの川づくり検討委員会議事録

日時：平成21年1月29日(木)14:30～16:00

場所：南丹市役所美山支所 大会議室

出席者：委員11名(欠席4名) 報道機関1社

### <結果>

- \* 事務局から提示した本事業における取り組みの方向性、および堰・床止めの遡上改善、瀬・淵の創出、河原の再生、親水性の確保に関する整備計画案について概ね了承が得られた。
- \* 今後、整備計画書を取りまとめると共に、事業の進め方等について検討していく。

### <主な意見等>

- \* 現地調査結果における魚の名称は、馴染みが出るように地域に密着した名前を用いてはどうか。
- \* 美山町には13箇所の水泳場があるが、土砂堆積によりかつて飛び込みができた淵も今は飛び込めなくなるほど浅くなっている。
- \* 過去に撤去された橋梁の橋脚基礎部が川の中に残されているところがあるが、これについても撤去を行い、元の自然な川の状態に戻す必要がある。
- \* 砂州は50～150年かけて動くものである。整備を行う箇所は、砂州の移動傾向を十分に考慮し、整備後においてもその変化を見守りながら対応していく必要がある。また、川の中のものを全部綺麗に撤去するのではなく、川に残すべきもの(巨礫や隠れ場等)は残す必要がある。
- \* 川と森林は密接な関係にあるため、堆積土砂の除去と森林の保全是、並行して対応すべきである。
- \* 親水性の確保により、北集落前を決して公園化してはならない。地元の意見をよく聞き、整備後のイメージを想像しながら整備内容について十分に検討していく必要がある。
- \* 本事業(堰・床止めの遡上改善、瀬・淵の創出、河原の再生、親水性の確保)による治水への影響については十分に検討する必要がある。
- \* 本事業は、生物の観点から考えたもので、非常に興味深い。また、景観や地域振興等、ソフト面を整備にいかにかかすかがポイントとなる。
- \* 地元が協力して、入川道の整備、雑木の伐採、生物調査など、共同作業してはどうか。また、工事途中で見学会を開催するなど、工事のねらいや目的等を住民に解りやすくアピールすることが重要である。

## 美山川・やすらぎの川づくり 整備方針案で意見交換

### かやぶきの里周辺の親水護岸など

美山川の河川環境整備のあり方を話し合う「やすらぎの川づくり検討委員会(委員長/川合茂舞鶴工専教授)の第二回会合が先月二十九日、南丹市美山支所で開かれた。

今会合では、事務局(府南丹土木事務所河川砂防室)が、「かやぶきの里」(北集落)周辺の水辺づくりや生物にやさしい環境整備のメ

ニユーを盛り込んだ整備方針案を提示し、事業化に向けて委員が意見交換した。

美山川は、一級河川。由良川の最上部にあたり、大野ダムから源流の三国岳までの区間。主要地方道・京都広河原美山線沿いを流れ、アユ釣りのスポットとして知られる。

「かやぶきの里」がある北集落は、年一〇万人が訪れる最大の観光名所だが、付近を流れる美山川はコンクリートの直立護岸になって

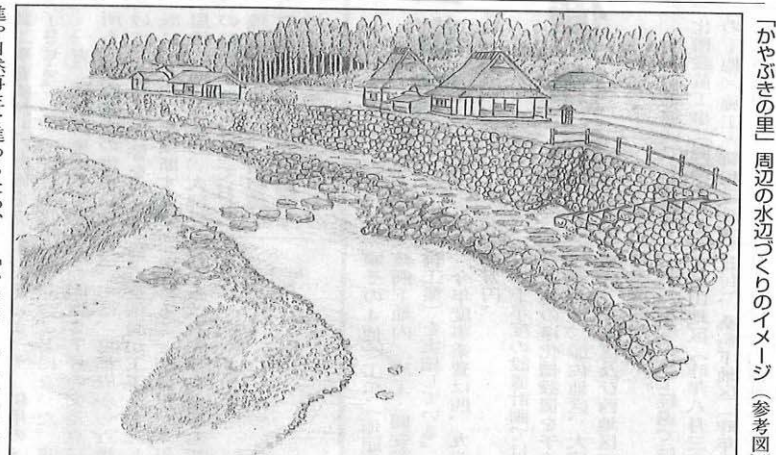
おり、来訪者が川に立ち寄り難く、観光面や親水性の観点から課題が残されている。

また、堰堤の破損等により魚の遡行を助ける魚道が機能していないなど、魚類等の上下流の移動の妨げとなっている。土砂堆積などにより、中洲の発達や淵の減少なども見受けられる。

河川を管理する同事務所では、美山川が抱える河川環境、地域振興等の観点から課題を洗い出し、利用促

進や自然再生を進めるため、昨年十月三十日に学識経験者や地元の関係団体など五人のメンバーで構成する検討委を発足。今年度内に整備方針案を取りまとめる予定としている。

整備の対象区間は、平屋大橋付近より五波谷川合流付近までの約一六km。整備箇所は一八カ所。親水整備(かやぶきの里周辺)を「カ所」の改善(取水堰・床止)の遡上による魚道設置等)を八カ所、土砂堆積の緩和(瀬・淵の創出、河原の再生)を六カ所、流出土砂の除去(美山川上流域支川)を三カ所



## 2. 第2回委員会での意見等を踏まえた検討結果

- 1) 美山川生息魚種の地元の呼び名
- 2) 水泳場について
- 3) 岩吹堰堤の整備について

# 1. 美山川生息魚種の地元の呼び名

美山川生息魚種の地元の呼び名

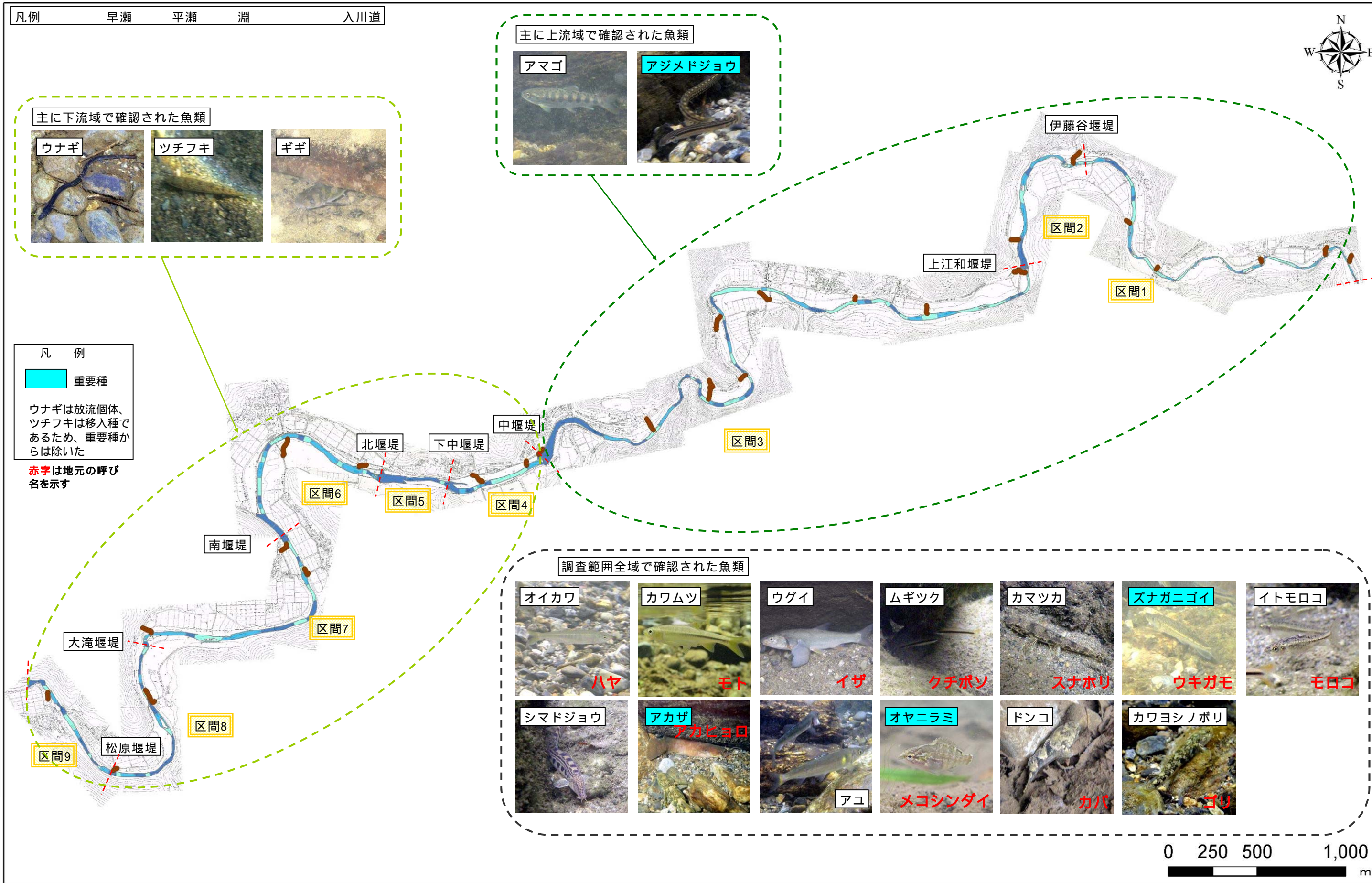
正式名称	知井	平屋	宮島	鶴ヶ岡	大野
ウナギ	ウナギ				
ツチフキ					
ギギ	ギギ		カラカギ	?	カラカギ
アマゴ	アマゴ		アメゴ		アマゴ
アジメドジョウ	アジメドジョウ				
オイカワ	ハヤ			ハイ	ハヤ
カワムツ	アカモト	モト	アカモト	アカモ	アカモト
ウグイ	イザ				
ムギツク	イワコツキ	クチボソ			イワコツキ
カマツカ	ダンギリボ	スナホリ		カマカツ	ダンギリボン
ズナガニゴイ	ウキガモ		ハチゴイ	?	ハチゴイ
イトモロコ	?	モロコ		?	?
シマドジョウ	タケドジョウ	シマドジョウ			
アカザ	アカヒョロ		アカシチ	アカビチ	
アユ	アユ				
オヤニラミ	ネコシンタイ	メコシンダイ (メコシンタイ)			
ドンコ	カバ		ドホ		
カワヨシノボリ	ゴリ				

(参考) 京都府レッドデータブック記載種の地方名

区分	種名	京都方言 (地方名)	
絶滅種	ニッポンバラタナゴ	ボテジャコ	
	ミナミトミヨ	サバジャコ	
絶滅寸前種	カワバタモロコ	キンタジャコ	
	アブラハヤ	ノベ (綾部)	
	イチモンジタナゴ	ボテ	
	イタセンバラ	ビワタナゴ	
	ツチフキ	スナモロコ・ドロモロコ (関西)	
	スジシマドジョウ	スナドジョウ、ササノハドジョウ、タカノハ	
	アユモドキ	ウミドジョウ	
	ホトケドジョウ	ホトケ、ダルマドジョウ、ホトケドジョウ、ヤマニラミ (舞鶴)	
	ナガレホトケドジョウ	ホトケ	
	ウツセミカジカ	ゴリ、デデクロ (丹後西部)、ガコ、ガマ (丹後)	
	アジメドジョウ	-	
	絶滅危惧種	スナヤツメ	ヤツメ、ナアツメ (丹後西部)
		シラウオ	シラス
シロヒレタビラ		ムシブナ	
カネヒラ		-	
カワヒガイ		ヒガイ	
ズナガニゴイ		ウキカマツカ	
ゼゼラ		ムギワラバエ、ボウズ	
アカザ		アカシチ、アカニコ (綾部)、オヒツ、アカビツ (八木)、アカネコ	
メダカ		イキンジョ、ウキンタ、ウキンポ (南桑田)、オキンチャ (京都市)	
オヤニラミ		ケントババ (関西)、ミツクリ (大堰川)	
アカオビシマハゼ		グズ (丹後)、クズツベ (丹後西部)、イマグズ (丹後西部)	
ゴクラクハゼ		ゴリ、グズ (丹後)、クズツベ (丹後西部)	
カマキリ		ゴリ、ガコ・ガマ (丹後)	
準絶滅危惧種		ヤリタナゴ	ボテ、ボテジャコ
		アブラボテ	ボテ、ボテジャコ
		カワムツA型 (ヌمامツ)	ハエ、アカモト、ムツ、モト
	シモフリシマハゼ	グズ (丹後)、デデクロ (丹後西部)	
	シロウオ	ギャフ、シラウオ、イサザ (丹後)	
要注目種	カワヤツメ	ヤツメ、ナアツメ (丹後)	
	サケ	シャケ、シロザケ	
	ニゴロブナ	-	
	ハス	ケタバス、ケタ	
	ワタカ	ワタコ、ウマウオ	
	スイゲンゼニタナゴ	ボテジャコ	
	ホンモロコ	ゴマモロコ (山城)	
	デメモロコ	スナモロコ	
	ビワコオオナマズ	-	

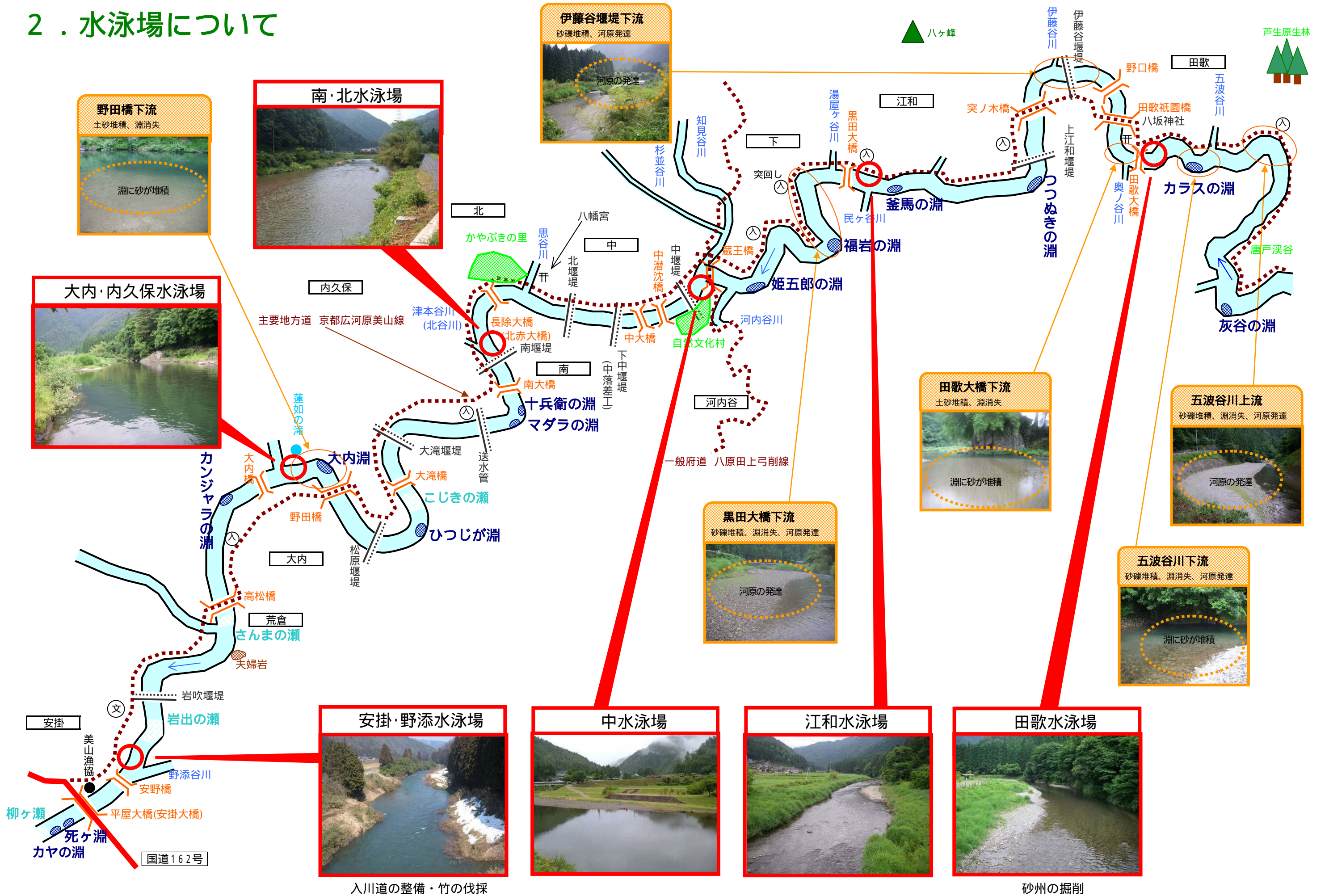


# 整備対象区域における生息魚類





## 2. 水泳場について



入川道の整備・竹の伐採



4

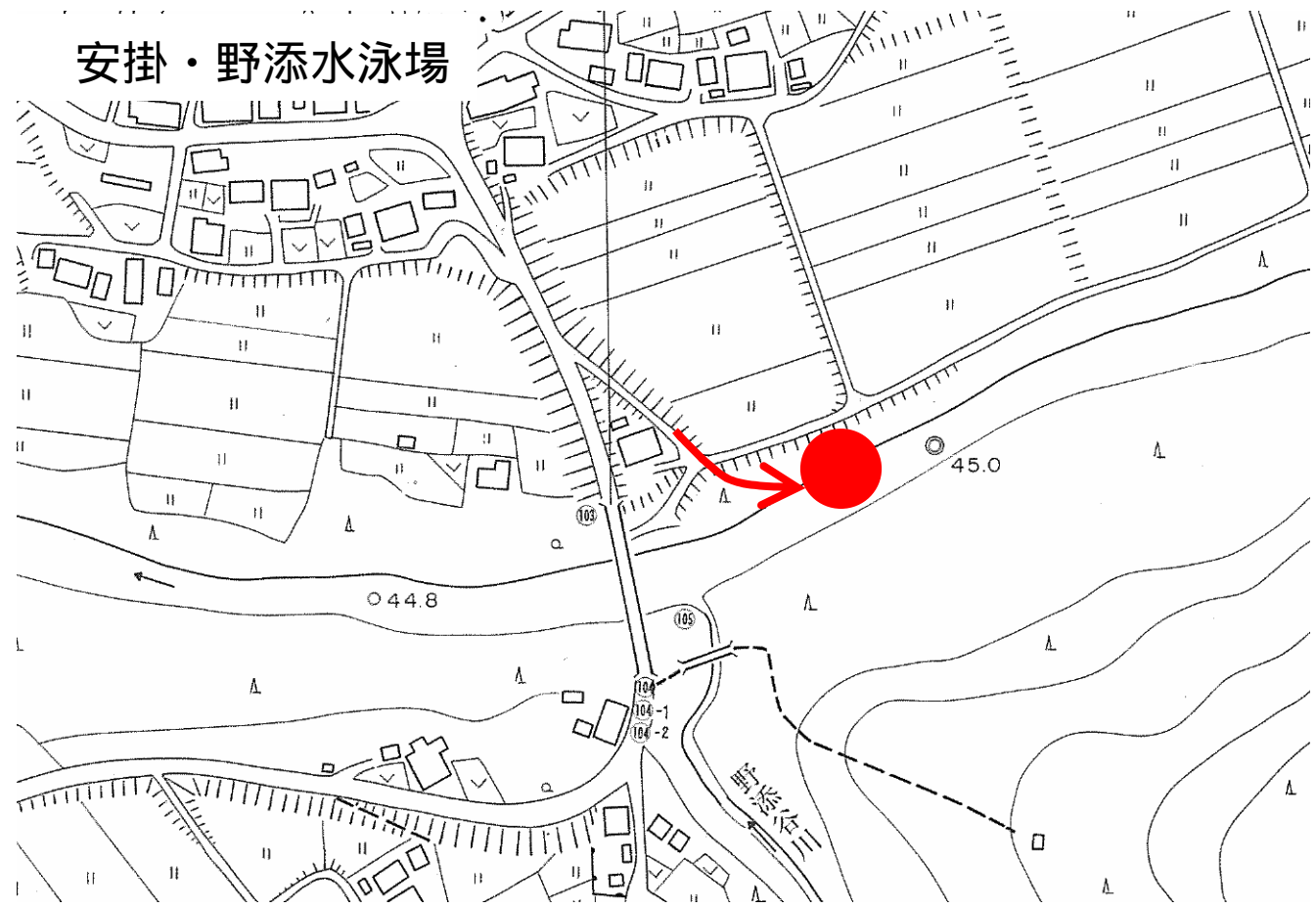


砂州の掘削

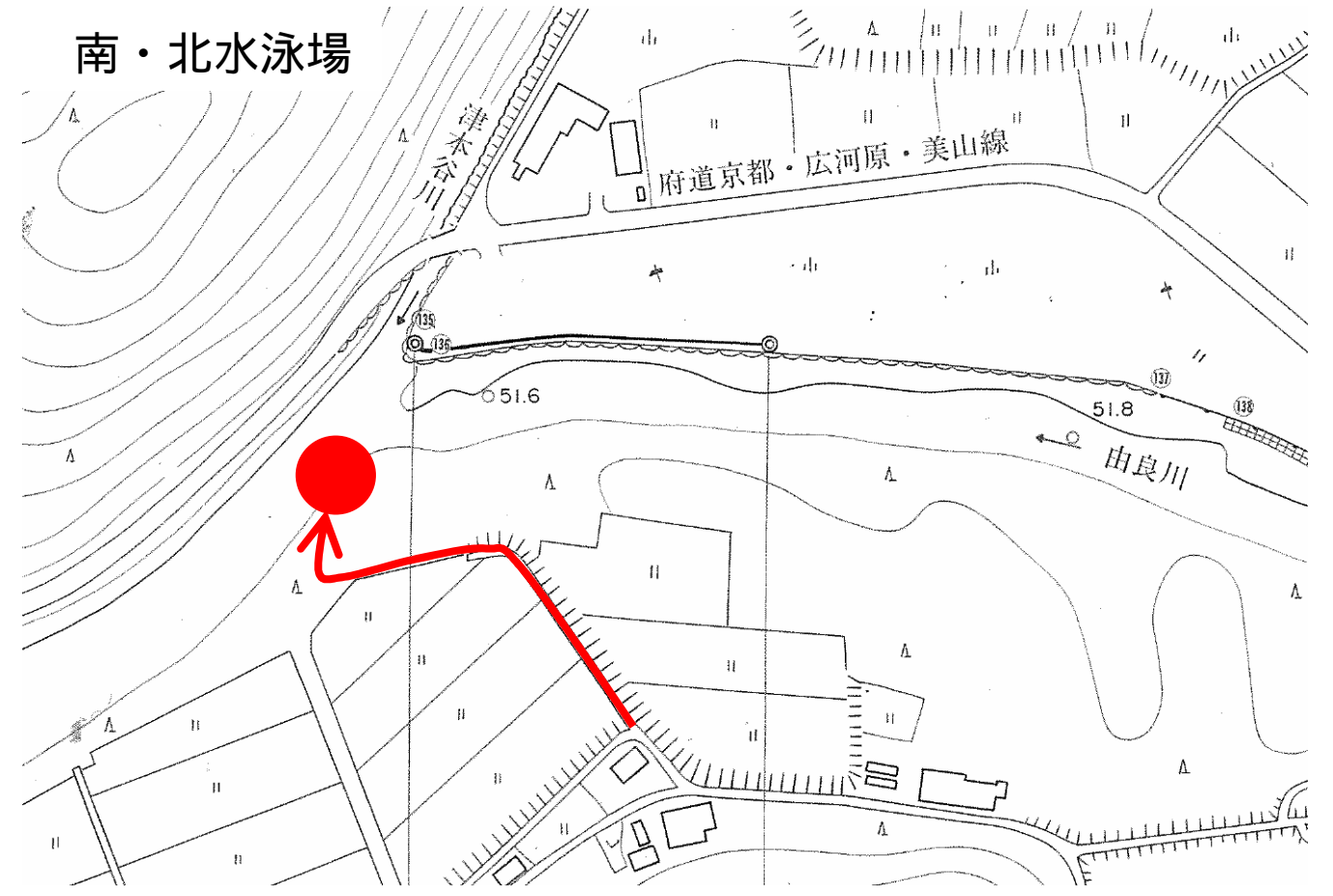




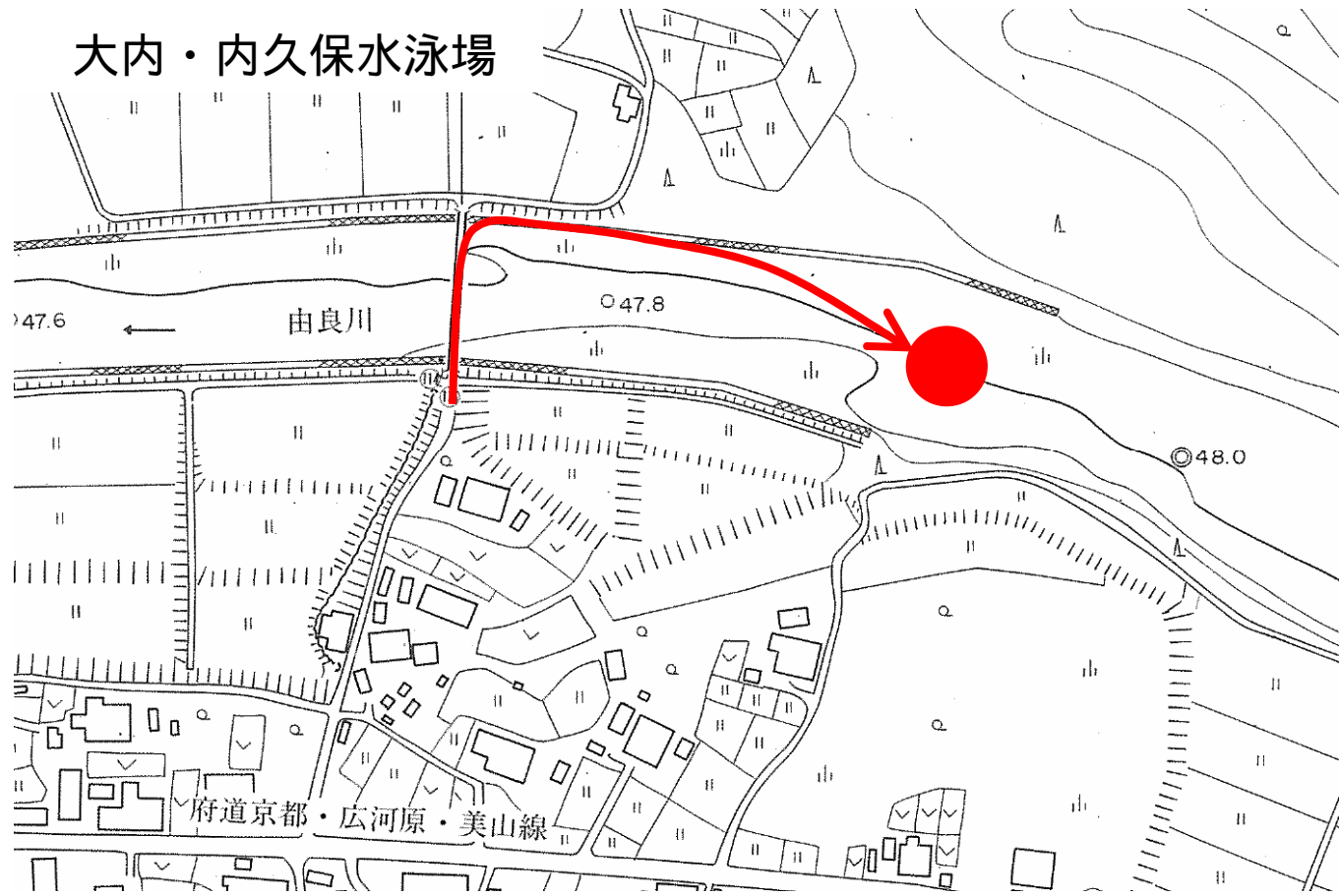
安掛・野添水泳場



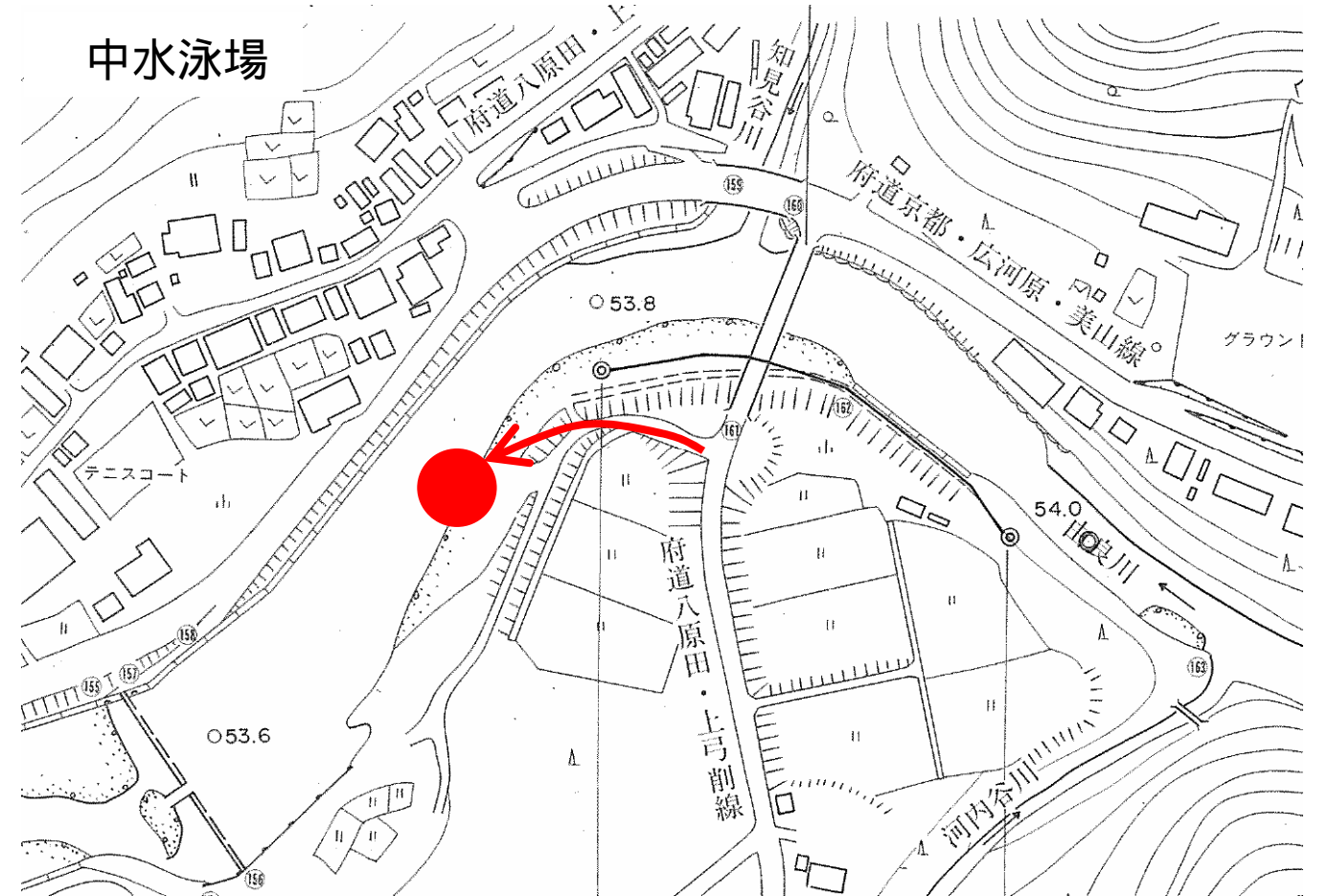
南・北水泳場

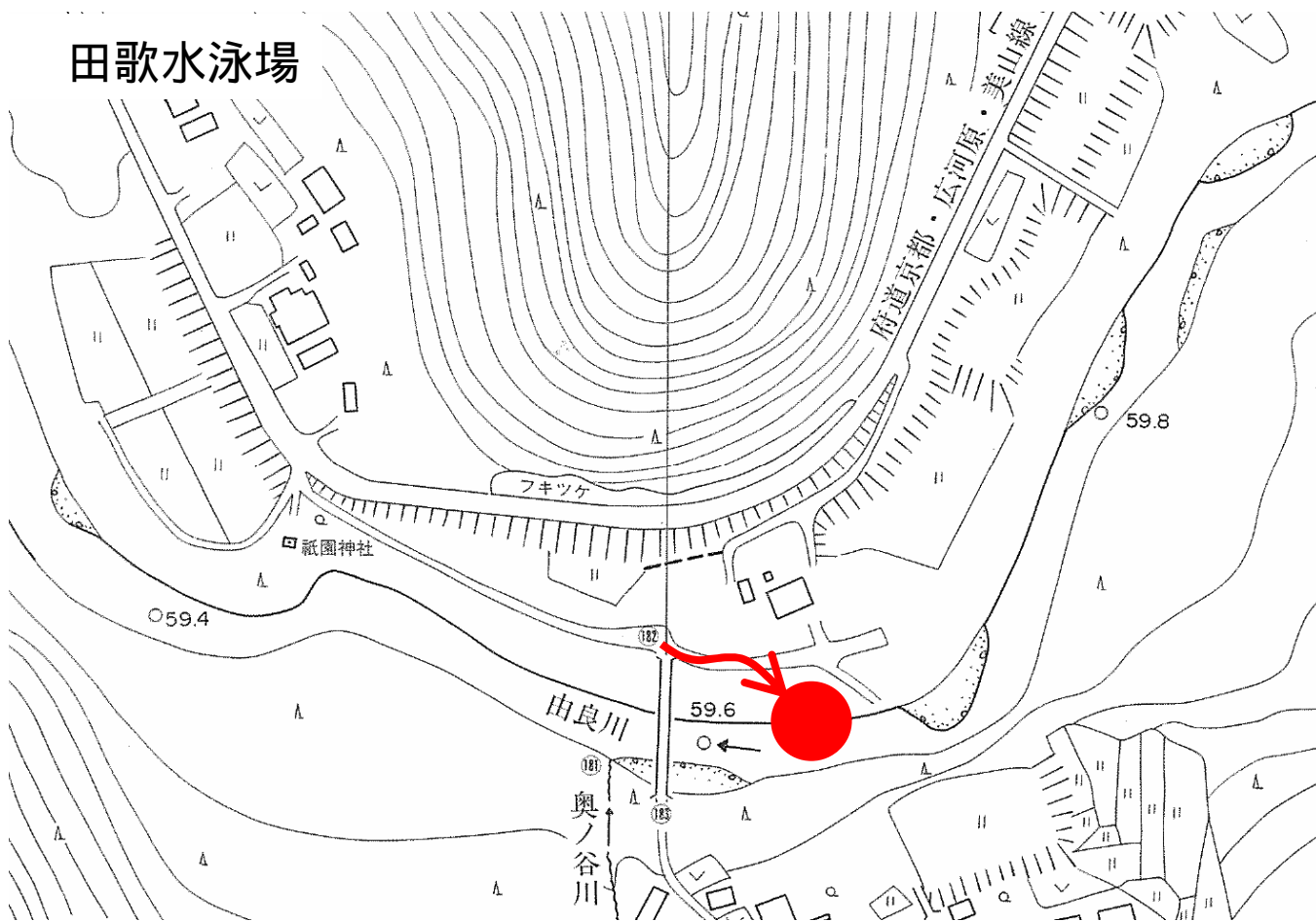
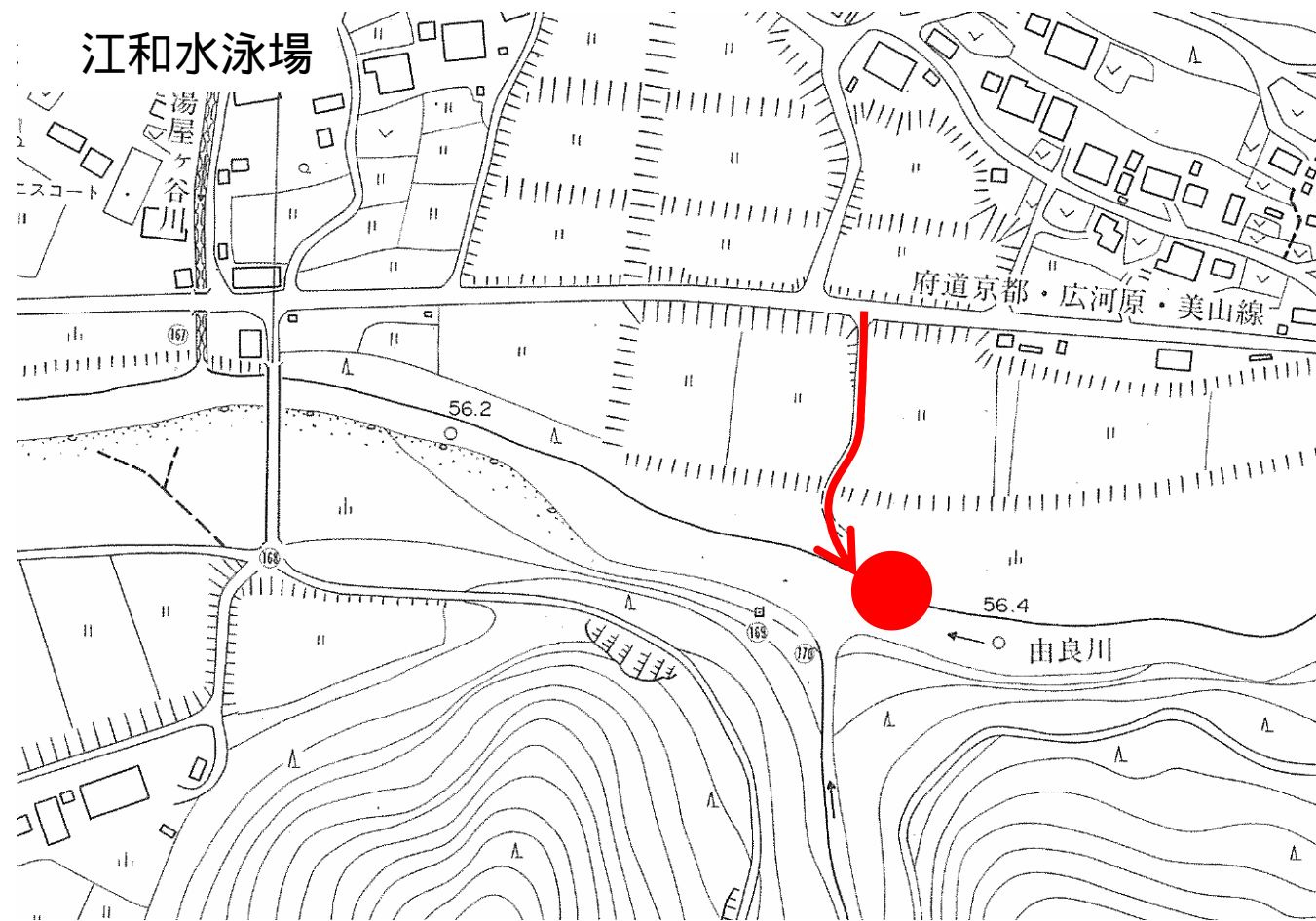


大内・内久保水泳場



中水泳場

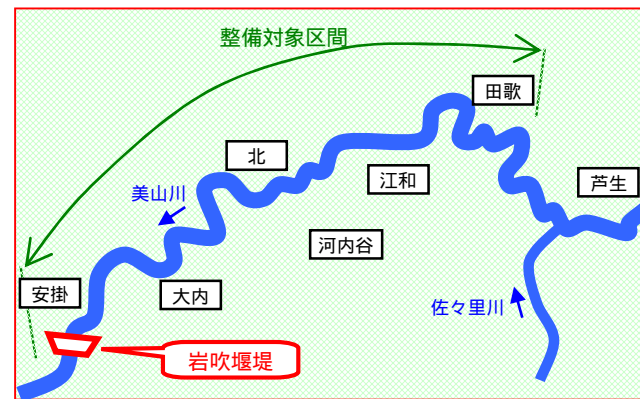






### 3. 岩吹堰堤の整備について

岩吹堰堤は、安野橋の約0.7km上流(美山町安掛)に位置する取水堰で、堰本体の落差が大きく、また、既設魚道が舟通し式で水深が浅くなっているとともに、下流側にも段差があるため、魚類等は殆ど遡上できない状態となっている。



岩吹堰堤の諸元

名称	目的	管理者	最大取水量 (m <sup>3</sup> /s)	かんがい 面積(ha)	落差 (m)	取水	魚道	遡上 可否
岩吹揚水機	かんがい	岩吹水利組合	0.06 (慣行)	25	約1.5	右岸 ポンプ	左岸 舟通し式	×

昔の岩吹堰堤(昭和51年6月撮影)



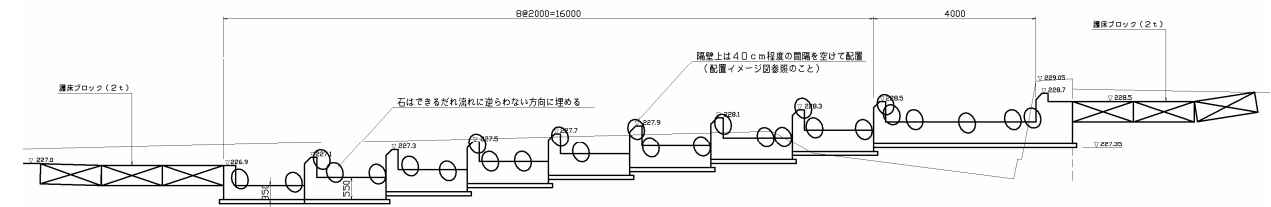
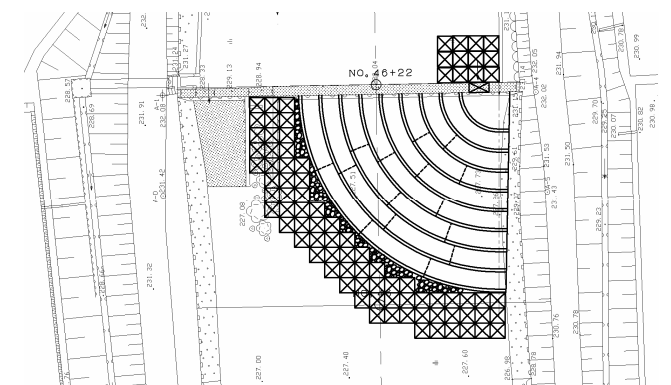
本堰堤は、現在取水が行われているため、取水位に影響を及ぼすような部分撤去等を行えない。また、既設魚道は殆ど機能していないため、魚類等の遡上箇所が多自然タイプの魚道を設置する分類となる(2.上江和堰堤、6.大島堰堤と同じ)。

左岸側の既設魚道は、呼び水としてある程度機能すると考えられるため、新設魚道は、右岸側の取水に影響を与えないように、既設魚道の側部に設置するのが望ましいと考えられる。魚道構造は、伏流等による水枯れ防止のためにコンクリート構造とするが、表面に自然石をランダムに配置し、コンクリートを隠して自然の早瀬風に見せる工夫を講じることが考えられる。

しかしながら、本堰堤は落差が大きく対策が大規模になること、現地調査結果より下流区間は遡上改善の優先度が比較的低いことから、本事業対象の8基の整備を経て、その効果を検証した上で、今後検討していくものとする。



岩吹堰堤の整備イメージ



多自然魚道の整備事例(水海川・福井県)